

柳營日記記

寛文八年 戊申

四月

朔日

巳后刻御黒書院 出御如例之御一門方 御對顔次

御馬拜領 御殿 松平左京大夫

右拜領過御白書院 出御如例月諸大名衆 御目見

平野權平於麻生下屋敷被下之是上屋敷ニ養子丹波守

居住付被下之旨也

増山兵部祖母仙光院今度類火付為作事料金子二千兩被下之

金貳万兩 保科肥後守

右兩屋敷類火付為作事料被下之旨今度類火之面々

借金被 仰付候

三百石ノ 金五十兩

三百九十石迄

但親屋敷一所居住之面々三十兩

貳百俵より 金三十兩

貳百九十石迄

右同断之面々金貳十兩

百俵より 金貳十兩

百九十石迄

右同断之面々金十五兩

富士見番御天守番御宝藏番御廣敷添番奥方目付同火之番

御手鷹師御臺所御賄方御徒目付火之番御具役人御太鼓役

進物取次番火之番二ノ丸添番二丸添番之頭御掃除之者類

百俵より三百俵迄右之高同前之事

六十俵より九十俵迄金十兩ツツ五十俵以下七兩与力

金貳十兩ツツ

抱屋敷地小屋敷親類之屋敷ヲカリ自分作事仕住居之面々

自分屋敷可為同前候事

親兄弟屋敷之内自分作事仕住居或屋敷家来分類火或借

屋敷之輩拜借金高親屋敷一所居住之面々可為同前

事附自分屋敷親類借置其所類火自分他所居住類火

不逢輩拜借金無之事

右拜借金酉ノ年より十ヶ年可為上納事

金七兩ツツ

同五兩ツツ

同四兩ツツ

同三兩ツツ

同式兩ツツ

右之分御金被下之

御書院番御小姓組末之暮御番入被

銀三拾枚被下候大御番末之暮御番入被

金銀被下之

増山兵部少祖母為作事料金貳千兩被下之

銀馬代 織田山城守

晒布廿疋 立花左近將監

銀百枚 遠藤備前守

狸々皮十間 九鬼式部少輔

銀馬代 伊東主殿

光庵五懸 竹中左京

銀馬代 六郷伊賀守

御裕三 伊東主殿

銀馬代 伊東主殿

銀馬代 伊東主殿

紫皮十枚 竹中左京

銀馬代 多羅尾權兵衛

水指二 松平越後守使者

一荷二種 荻田主馬

銀馬代 南無寺 同 人

二束一卷 寺領被下御札

一束一卷 後住之御札

同 同 同

一束一本 同 同 同

御札葵草 同 同 同

鳥目一貫 同 同 同

色糸一折 同 同 同

上方御代官設楽源右衛門箱有美濃御代官石原清左衛門

鳥目一貫を持參御札申上之

二日

無記事

三日

右被

御付之

御小人

黒楸

御掃除之者

六尺

右之上御金被下之

御書院番御小姓組末之暮御番入被

銀三拾枚被下候大御番末之暮御番入被

金銀被下之

増山兵部少祖母為作事料金貳千兩被下之

銀馬代 織田山城守

晒布廿疋 立花左近將監

銀百枚 遠藤備前守

狸々皮十間 九鬼式部少輔

銀馬代 伊東主殿

光庵五懸 竹中左京

銀馬代 六郷伊賀守

御裕三 伊東主殿

銀馬代 伊東主殿

銀馬代 伊東主殿

紫皮十枚 竹中左京

銀馬代 多羅尾權兵衛

水指二 松平越後守使者

一荷二種 荻田主馬

銀馬代 南無寺 同 人

二束一卷 寺領被下御札

一束一卷 後住之御札

同 同 同

一束一本 同 同 同

御札葵草 同 同 同

鳥目一貫 同 同 同

色糸一折 同 同 同

大御番頼本多伯耆守 山田太郎右衛門

新見勘左衛門尉

神谷助左衛門

青柳新五右衛門

御付候

右州伊香保論所為見分可被遣旨被

一賀茂惣代林主馬岡本縫殿御暇時服二充被下之

一尾張黃門掃部中へ自老中以次飛脚奉書遣之

一松平越後守掃部付為差越候使者荻田主馬御暇時服三

羽折被下之

一細川越中守參勤二付上使久世大和守被遣之

一羽州羽黒山執行室善院同弟子大乘坊同所衆徒等評定所

召寄之上意之趣寺社奉行演達之仰室善院與衆徒等訴

論事雖為度々御穿鑿不分明儀依有之酒井左衛門尉家来

造彼地糺明之處室善院事神領申掠之增高辻 御朱印致

頂戴其上衆徒之坊舎數ヶ宇破壊之其坊領令押領刺伐採

神領之山林構私宅耽亂舞與逸不道之事業重疊此外衆徒

之目安之内數ヶ条令合部畢室善院及大乘坊等甚以奢侈

竊曲難勝計依之二人共令法衣脫脚被處大嶋流罪

右二人早速彼嶋へ可差遣之旨御松手頭伴作平と伊奈兵

右衛門傳之

五日

已刻御黒書院 出御

金五枚 大坂御目付

御暇 御暇

同断 同断

同断 同断

同断 同断

同断 同断

同断 同断

同断 同断

同断 同断

同断 同断

同断 同断

同断 同断

同断 同断

同断 同断

同断 同断

金玉枚 官津御日付
拾式羽折 御暇
大久保甚右衛門
駒木根長右衛門

去廿九日御簞笥奉行小俣吉左衛門儀御鉄炮葉為可相渡去

十五日彼御藏被罷出則久永源兵衛組同心門口立居候を
不作法之為伏之旨吉左衛門令雜言之故源兵衛組嶋治九郎
右衛門則罷出及挨拶之処九郎左衛門不成堪忍様に吉左衛
門又令悪口也依之去十七日吉左衛門宅へ九郎右衛門相越
打果及御聽吉左衛門与力甚悪口之段不届被思召仍遣領
御立無之御留守居四人御老中傳之

小俣吉左衛門子七郎左衛門、格別御奉公仕候間如前々可
勤旨七郎左衛門可申合也此段本多伯耆守老中被傳之
但七郎左衛門儀中根日向守組也

源兵衛歩行同心中川加右衛門儀其身之頭無之イへ此懇
勤可仕之処御役所罷越不調法之仕合不届付可放御
扶持之旨頭源兵衛老中被傳之

一 今今日參勤御暇有之名別紙卷末に記す

六日

今朝老万石以上之家来評定所招之百姓之御法度書相渡

岡田豊前守 出座渡遣之
松浦猪右衛門

覚

其所々イニシへ仕来出し候諸色又他所より来候
商賣物此両様津留有之候おめて其様子書注之可被差
越事

公儀より御定之升之外イニシへ其所に有来舛其外如何
様之舛用來候哉様子書付之可被差越事以上

四月

右之通四月六日朝於評定所岡田豊前守松浦猪右衛門被

仰渡候

覚

一 從此以前被 仰出在々所々之輩著たる儀不仕農業を
專にいたし進退持たつる様に常々心懸諸事無油断はけ
まし可申事

一 庄屋惣百姓に自今以後不應其身屋作不可仕但道筋之
町屋人宿仕輩可為格別事

一 百姓之衣類前々より如御法度庄屋妻子共に絹袖布木
綿郷百姓布木綿之外不可着之糸り帯等にも絹袖をも
不可致之庄屋惣百姓男女共に衣類紫紅に満へからす此
外之諸色かたなしに満可申事

一 百姓食物常々雜穀を用へし八木根に不可食之事
一名主惣百姓男女共に乗物一切可為停止之事
一 勅進能相撲あやつり等之見物之類在々所々に一切不可留
置之事
一 神事之祭礼或葬礼年忌之仏事或婚礼諸事之祝儀等至迄
百姓に不似合不可致結構之事
右条々堅可相守之旨庄屋常々改之可申付之違背之族於
有之庄屋五人組より其所之奉行人代官 急度可申達
之若隠置之屬より令露顯庄人五人組迄可被行曲事者
也

寛文八年三月 此令三月十四日出 重出也

七日

今朝 上使以御暇被下面々

大和守 松平加賀守

銀十枚 拾百枚

美濃守 松平大膳大夫

銀五百枚 拾五十

伊達遠江守

銀二百枚 拾二十

右今朝御暇被下之為御札登 城

已上刻黒書院 出御於 御前

御鷹二双 御馬二疋

御馬老匹

同断

右之通被下之

去四日羽州羽黒山別當宝善院弟子大乘坊同衆徒中訴
論有之御穿鑿之上宝善院大乘坊私曲無紛付兩人犬嶋
流刑被 仰付之旨評定所招寄之寺社奉行被傳之
右式人彼嶋へ品々可指遣旨伴佐平伊奈兵右衛門被 仰

渡之

一 森美作守參勤付御太刀馬代金一枚綿百把を捧御札申
上之

一 松平加賀守家老奥村因幡御暇時服五羽折被下之
一 御暇之面々被下物

銀百枚 加藤出羽守
銀十枚 木下淡路守
御拾六 岩城伊与守
御拾 市橋下總守
同十 毛利刑部少輔
同十 織田豊前守
銀五十枚 遠山信濃守
御拾五 松平久米助
御拾五 織田對馬守
同四充 森 對馬
羽折 溝口内記
同二 大坂町人
羽折 尼崎又右衛門
拾二

八日

一来十七日日光山 御名代品川式部大輔被 仰付御祭礼

辻固之御用土井周防守被 仰付

一同断廿日御名代太田備中守可被遣旨被 仰付之

一 伊勢 御名代由良信濃守被 仰付之

一 日門登山付杏仙事彼地可罷越旨被 仰付之

一 甲府殿館林殿紀水兩宰相以上 上使御鷹之梅首鶏五充
被遣之

拾三羽折 酒井左衛門尉家来
本多次左衛門
岡田九右衛門

右去頃羽黒山為檢使依被遣之也

九日

中丸御方家老白井平兵衛事代官町役屋敷為作事料白銀式
拾貫目被下之旨老中被仰渡之

一 高田御方本理院御方千代姫君御方御鷹之梅首鶏五充
奥方より被遣之

一 保科肥後守へ内藤式部少輔為 上使御鷹之梅首鶏五被

下之

十日

評定所公事訴訟裁許之樣躰依御尋雅樂頭豊後守遠高
開然^者挨拶仕之儀不可然思召也自今已後公事訴訟其筋之
奉行入令批判其上一座之面々不殘心底申出^{畢意}可承之
旨被仰出右奉行人不殘今日招營中 上意之通雅樂
頭豊後守傳達之黒書院溜也

御鷹之梅首鷄五充

上使大章主膳正
尾張中將殿
同 田中次大隅守
水戸少將殿

右之通被遣之即刻為御札登 城

十一日

松平新太郎^次毛利甲斐守^次祝言有之

越後柴田溝口出雲守在所去二日三丸侍屋敷より火事出

来二丸本丸不殘焼失出雲守菩提所^江退去之由注進之

大久保加賀守事 御座間^江被為召西國筋探題小笠原

右近大夫跡役被 仰付旨御直に被 仰出候

一御座間へ大久保加賀守被 召出之長崎表万一かれうた

一松到来之節諸事御用之儀被 仰付之云々は前々小笠原

右近將監雖奉之去年卒去^二付也

十二日

於評定所式日寄合大和守内膳正出座

一於御座間品川式部太輔由良信濃守^{伊勢御先代}太田備中守土井周

防守 御目見是伊勢日光^江被差遣之付^而也

一御鷹之梅首鷄五充被遣之

藤堂大学頭

細川越中守

松平出羽守

松平龜千代

右 上使御使番を以被遣各為御札登 城

一日門へ 上使上杉伊勢守を以御菓子(枝柿)被遣是近日登

山^二付也

十三日

一松平越前守参府^二付^而為 上使板倉内膳正被遣之

一上使御使番を以御鷹之梅首鷄五充被遣左之通

松平伊与守

松平伯耆守

立花左近將監

有馬玄蕃頭

蜂須賀千松

毛利甲斐守

松平飛騨守

右御札として即刻登 城

十四日

今朝永井伊賀守内室平産男子之由是太田備中守娘也

一御鷹之梅首鷄五充以 上使被下之面々

松平右京大夫

佐竹右京大夫

松平土佐守

森 美作守

松平信濃守

黒田万千代

十五日

辰下刻黒書院 出御御一門方 御對顔過^而白書院 出

御如例月諸大名 御目見有之巳下刻西丸^江 渡御御

供^へ

土井能登守

板倉筑後守

松平民部少

本多左大夫

三束二巻

門主被仰付
無量壽院
御札

一摂州御代官松波五郎右衛門八丈御代官谷弥五右衛門進

物前^二置各参府之御札

一参勤御札
太刀目録銀三百枚
綿五百把

松平越前守

御臺様へ

銀三十枚 女中有差
タケ長奉書五十帖

時服五銀馬代

同 二銀馬代

同 同

奥
訂野卷殿守組本多士左守組御番衆

於山里御馬^上覽御膳被 召上申刻 還御

一小笠原遠江守以箱着病後之 御目見

一松平越前守家来酒井玄蕃田圖書太刀目録を以 御目見

一妻木遠江守以太刀目録参府之御札申上候

時服七
羽折

時服五羽折

時服三羽折

(金十枚
時服二羽折

佐州へ
御暇

一松平主殿頭事西丸御番被 仰付是松平若狭守依御暇也

十六日

高田御方御住宅去春火事之節及類焼悉焼失依之為御作

事料金子五千兩被遣之

伊沢隼人正右之目録持参之

一自京都牧野佐渡守参府於 御座間 御目見御太刀目録金

馬代御の矢十手御轡十口献上之

御臺様へ義経記一部ハリコ五十ツメ式捧之

一上野下野筋論所見分神谷助左衛門青柳軒^新五左衛門差遣

さる候に付傳馬之御朱印^并金老杖充被下之

十七日

巳后刻紅葉山 御宮^江御社^参御先^江

御太刀 織田主計頭

御刀 石川美作守

御簾 大沢兵部太輔

御香 松平紀伊守

御先立 雅 楽 頭

御供 老中不殘

土井能登守

御近習之面々

御供
土井能登守
板倉筑後守
松平因幡守

紀水兩宰相尾中将殿陪拜

智樂院拜迎但日門在山毘門在洛^二付^而也

還御以後御兩典被參宮

如例御一門方より使者差上らる

十八日

八条殿領知三千石之御判物以両傳奏從法皇御所被仰

遣之^{依之今度野々山肥前守掃洛之}

一日光山より繼飛脚到来昨十七日天氣快晴御祭礼首尾能

相済旨注進之

一伊勢へ為^{御名代由良信濃守依差遣御暇金五枚拾三羽}

折被下且兩宮へ御太刀日録金拾枚充御進献之

一長崎より到来之御伽羅二木^{并琥珀}之御香箱^{女院御所へ}

野々山肥前守掃洛之時被進之

十九日

一松平讚岐掃國付^而使者芦野水之助を以縮紗甘巻献上之

一御鷹之梅首鶏五充以上使御使番被下之各為御礼登城

左之通

廿日

已后刻上野御仏殿^江御參詣^{御長持}終^而宝樹院殿御

靈屋御參詣御先^江

御刀^{松平内記}

御香^{松平紀伊守}

御先立雅樂頭

紀水兩相公尾中将陪拜

還御後兩典既參詣

還御後如何御一門方より使者差上らる

與^{牧野佐渡守}御供

松平因幡守

永井伊賀守

板倉筑後守

内膳正

豐後守

一出御以前御座間^二品川式部太輔土井周防守日光より掃

廿一日

石州銀山御代官

秋田九郎兵衛跡

棋州御代官

松波五郎右衛門跡

右之通被^{仰付旨老中傳達之}

稻葉美濃守從弟差合登^{城無之}

丹羽權兵衛内儀昨日死松平民部少姪^{差合登}^{城無之是}

和田彦兵衛娘昨夜死

高木主水正内室廿一日之夜平産板倉内膳正息女

一松平讚岐守在着御礼之使者御暇^二付時服^二被下之

一銀座末吉孫左衛門御暇時服^二被下之

廿二日

評定所式日寄合久世大和守土屋但馬守出座

一紀伊宰相殿息女事一条大納言^江縁組被^{仰出之為}上

使雅樂頭豊後守被遣之

一於御座間雅樂頭豊後守梅首鶏五充被下之

廿三日

登^{城於}御座之間^{御對顔是}昨日以^上使御息女光

姫御方一条大納言^江縁辺被^{仰付候御礼過}已下刻黒書

院出御

御刀^{能勢摂津守}

於御座之間被下之

美濃守

大和守

但馬守

内膳正

同三

牧野佐渡守

松平遠江守

遠藤備前守

井上筑後守

右大坂加番被^{仰付遠江守土佐守}在^二国^二付御奉書を

以被^{仰遣}

未后刻二丸^江渡御

(金十兩)

(綿百把)

右參府^二付^而進上之所勞ゆへ登^{城無之}

參勤御礼

(銀百枚)

(綿百把)

(金十兩)

(銀馬代)

婚姻之御礼

初見

松平仙菊

松平淡路守

松平準正少弼

有馬玄蕃頭

松平新太郎

毛利甲斐守

松平安藝守

小笠原遠江守

一松平老岐守湯本より掃參之御礼箱看差上之

一尾黃門掃國之御礼使者渡辺半藏を以三種二荷差上らる

且半藏拾三銀馬代を捧自分御礼申上

一松平出羽守同断^二付使者南部安兵衛を以箱看差上之

一紀伊相公家老水野對馬守紀州へ罷^付御目見時服

五被下之

一右馬頭殿家老越中守子牧野兵部太刀目録をささけ初見

之奉る

一御暇之面々左之通

(拾三十)

御馬

同二十

溝口土佐守

仙石越前守

松平淡路守

松平準正少弼

有馬玄蕃頭

松平新太郎

毛利甲斐守

松平安藝守

小笠原遠江守

藤室和泉守

松平飛騨守

九鬼長門守

伊達市正

通仙院

桑山丹後守

大岡弥右衛門

利齋

宗貞

廿四日

一 増上寺 御仏殿 御名代内膳正

一 太田備中守日光より帰謁

一 大橋長左衛門飯高七兵衛事只今迄評定所寄合等之節著

雖令出座向後被成御免分限帳方日記方より一人昼夜御

番方より一人以上二人充可令出座候旨

廿五日

一 尾黄門使者渡辺半藏御暇^二付時服四羽折被下之

一 松平出雲守使者南部安兵衛御暇^二付時服二羽折被下之

一 宗對馬守帰国御礼之使者浅井平右衛門を以虎皮三枚緑

豆粉一箱二種一荷献上之

一 丹羽左京大夫参府付^画 上使青山大膳亮被遣之

^奥 御臺様へ伽羅一木被遣之

廿六日

(金一枚 本阿弥光察

一 裕二 本阿弥一郎右衛門

(銀十枚 後藤利兵衛

一 裕二 徳左衛門

一 銀十枚充 善兵衛

(日記記は裕二) 惣次右衛門

右御暇^二付被下之

^奥 光察一郎右衛門へ鳳来寺^江立寄候^画御道具試候

様民部伊賀守申渡

廿七日

一 宗對馬守使者御暇^二付奉書渡之時服二羽折被下之

一 戸田相模守事尾州へ為 上使可被遣候間用意可致旨

廿八日 御刀 内藤上野介

已后刻黒書院 出御例月諸大名 御目見午下刻西丸

渡御御供

永井伊賀守

松平民部少

松平因幡守

(御太刀金馬代 参勤

一 白銀百枚 同

一 綿二百把 病後

御臺様へ銀十枚 女中有差

丹羽左京大夫

酒井左衛門尉

丹羽左京大夫

興津善左衛門組頭青木市左衛門事去二月六日火本^二付

寺入仕罷在候処去廿日御免^二付頭善左衛門^江老中傳達

^奥 山里^三 戸田相模守組御番衆乗馬 上覽

一 紀伊大納言殿使者大崎与三左衛門 御前へ罷出 御目見

是^ハ左京大夫先日御暇被遣候節御懇之 上意辱被存付

^而也

一 松平左京大夫使者鈴木四郎兵衛を以箱着差上之是今度

御暇被遣御礼也

一 京都清水寺成就院雜目之御礼

廿九日

一 松平安藝守帰国付^画以使者繕跡十卷兩種双梅差上之

一 以上使御使番御鷹之梅首鶏五充被下之

松平淡路守

丹羽左京大夫

松平彈正少弼

一 使者 御暇被下物

一 裕三 大崎与三左衛門

一 羽折 同二 鈴木四郎兵衛

一 羽折 同 紀重相使者

一 小十人組 大久保甚兵衛組

山梨新兵衛

中嶋五兵衛

右兩人武藏相模美濃三ヶ國之内野論有之付^而為見

分被遣旨老中被傳之

一 女院御所より端午之御祝儀被進之御使岩付新五左衛門

今日御城持参之奥^二 披露之

一 松平安藝守使者御暇時服三被下之

一 足利学校御造畢付^画土井能登守(岡田善兵衛柳田与惣右衛門)

時服被下之右学校^著能登守為領地之内因茲令差圖^二付

^而也

時服二充

土井能登守家来

柳田与三右衛門

岡田善兵衛

五日

一 於御前御鷹之梅首鶏三松平美作守拜領之

一 上使を以御暇被下物

銀五百枚

時服三十

(銀千枚 上使大和守

(時服百 松平新太郎

(銀五百枚 松平大隅守

(時服五十 美濃守

(銀三百枚 松平相模守

時服二十 内膳正

森 内記

御使番

松平但馬守

右之面登城御礼申上之各御馬拜領之

一 参勤御礼

(白銀三百枚猩々緯十間

(時服二十黒羅紗十間

御臺様へ銀三十拾枚 女中へ十枚五枚三枚

(紫皮二十枚 加藤織部正

御太刀目録

御臺様へ献物なし

一 御暇之面々被下物

(銀百枚 中川佐渡守

(時服十 秋月佐渡守

(銀五十枚 木下右衛門大夫

(時服十 久留嶋信濃守

(銀五十枚 五嶋淡路守

(時服五十羽折 土方備中守

(時服四羽折 谷 出羽守

同 平野信平

宮右衛門惣領

大久保牛之助

新五郎次男^甚

内藤宮右衛門

右兩人初見し奉る

一 戸川土佐守御暇^二付銀五十枚時服六羽折被下之但土佐守

煩登 城無之為名代惣領玄蕃頂戴之

柳營日次記

寬文八年

五月

朔日

奥 女院端午御祝儀物披露

御刀 神尾播磨守

老万石以上之面々々端午御帷子進上之^三付安藤對馬守請取納之

巳后刻黒書院 出御御一門方 御對顔白書院 出御如例月諸大名 御目見

御暇時ふく十 丹羽若狭守

進物 鍋嶋加賀守

梅原久善

大津町惣代

二日

久世大和守忌^二付登 城無之是、同二百松平山城守息女死去大和守孫也

去月廿七日

大橋兵左衛門

飯高七兵衛

右兩人評定所^江罷出事向後御免之旨

御暇金老枚時ふく式羽折

時ふく式

小嶋孫右衛門 石原清左衛門

三日

同組与頭 門奈半右衛門跡 御暇時ふく式 久留勘右衛門 高木作右衛門

小十人 三宅傳左衛門組 長崎町年寄

四日

評定所式日寄合延引

尾黄門国許到着^三付 上使戸田相模守を以^一荷^二一種被遣之

則相模守御暇金十枚被下之

五日

辰下刻黒書院 出御

御刀

大久保出羽守 左馬頭殿 右馬頭殿

白書院

紀伊殿 水戸殿

尾張中將殿 水戸中將殿

松平右京大夫 松平左兵衛督

御白書院縁類并関二郎左衛門鞍一口前^二置 御目見

六日

於評定所式日寄合在之美濃守但馬守出座也

一昨四日依延引及今日

一牧野傳藏組布施新左衛門事組頭被 仰付之

七日

板倉市正組 高井三郎兵衛八

由比吉兵衛 九

瀬名十右衛門 一

森川助之進 二

大岡五郎兵衛 七

平賀三五郎 六

久保三左衛門 三

三田十郎左衛門 四

山下源兵衛 五

中山五郎左衛門 十一

伊藤七郎右衛門 十七

上田孫三郎 十八

名取三郎左衛門 十三

久保田助六郎 十二

水野權左衛門 十四

奥津兵左衛門組 大井喜兵衛 十五

入戸野十左衛門 十六

山岡佐次右衛門 十

右拾八人、大御番小十人衆御納戸元方拂方人数不足^二付

入番被 仰付之旨永井伊賀守被仰渡候但し山岡佐次右

衛門^者煩^二付頭^江被傳之

御歩行頭 布施新左衛門

六日也 牧野傳藏組与頭 町田伊兵衛跡へ

一京都清水寺成就院御暇^三付金一枚時服二被下之

一大津之町惣代二人同断^三付時服二被下之

覺

猿樂不断刀帶之儀御免之者

觀世大夫父子

宝生大夫父子

金剛大夫

今春大夫

八左衛門父子

平右衛門

八之丞

觀世座三人

今春座式人

宝生座式人

八之丞座式人

六郎二郎父子

權七父子

權右衛門父子

太郎左衛門父子

勘之助

庄兵衛

忠次郎

市右衛門

大助

八郎右衛門

吉右衛門

庄二郎

介右衛門

清左衛門

安兵衛

清五郎

清次郎

小兵衛

十兵衛

兵三郎

五郎兵衛

源右衛門父子

九郎兵衛父子

三郎右衛門

三右衛門

兵左衛門

伊兵衛

久左衛門

介九郎

三郎兵衛

又右衛門

惣右衛門

孫右衛門

仁右衛門父子

弥右衛門父子

佐左衛門父子

傳右衛門

長大夫

喜左衛門

藤右衛門

地頭老座^二式人

日吉久兵衛

同 八郎兵衛

已野笠之助

藝事可相嗜不似合外之藝勤間敷事

絹袖可着事

御能之時分八大夫^二参言合可仕事

惣様共^二若黨召連間敷事

惣役者無足共^二三百七十人右之通堅可相守旨被仰

出候以上

五月四日

未后刻二丸 渡御 御馬 上覽申后刻 還御

一 女院御所より御使之岩付新五左衛門御暇^二付御返事御

内書相渡白銀五枚被下之

加藤權左衛門 諏訪部文九郎

右兩人奥州^{存中}江 御馬買^二可被遣旨支度可仕旨

天樹院殿附

湯上与三右衛門 早見半左衛門

宇地甚右衛門 早見太郎介

森川此右衛門 春悦

加雲 林齋

曾閑

右之面々屋敷被下候

八日

已后刻角田川筋^江 御成御供者

御物数三十四内 御奉六

土井能登守 板倉筑後守

松平因幡守

於角田川御殿御膳被 召上御殿より川口迄御舩^二夫

より御駕^二申后刻 還御御物数御奉^二六ツ脇

鷹^二同廿八真鴨二黒鴨一鷺一五位鷺一合三拾八也

天樹院殿衆

宇野甚右衛門

右紅葉山^江被為附御掃除等可申付旨被 仰渡之

一 御狩之梅首鷄以上使三充被遣之

高田御方 本理院御方

千代姫君御方 紀伊宰相殿

水戸宰相殿 尾張中將殿

一 御奉之梅首鷄三充兩典既へ被遣之

一 梅首鷄三保科肥後守へ被下之

一 昨日御狩之梅首鷄御一門方へ被遣付為御礼各登城

一 天樹院棟^江御奉公仕来坊主衆林齋意悦事紅葉山道人支

配請之御宮諸事御用可相勤之由

一 親世大夫保昌大夫同兩座之役者共御暇被下物如何

一 白銀十枚隅田川木母寺へ被下之是昨日 御成之節於彼

地御殿御膳被 召上^二付^面也

十日

長崎上り次飛脚

嶋原城去月二十七日請取申旨松平備後守注進

一 保科肥後守登 城於 御座間 御目見

一 松平但馬守在所到着御礼以使者二種一荷進上之

十一日

三州鳳萊寺医王院遷化^二付後住^三三會寺被 仰付候依之

高野山輪番無量壽院^并三會院招 殿中於白書院老中列

座被 仰渡之

十二日

於評定所式日寄合有之稻葉美濃守板倉内膳正出座

十三日

北條石京大夫組 高山弥右衛門

瀧川兵衛守組 石川四郎左衛門

右之外向後刀指申間敷事 御法度

道中^二面 道具為持間敷事 九日也

只今迄小普請役之是向後
御勘定頭に為支配之由也

右五人^江勘定衆被 仰付旨老中被傳之
同 人 組
遠藤新左衛門
赤坂四郎右衛門
本多権右衛門

十四日
殿中無別条

十五日
辰下刻黒書院 出御如例月諸大名 御目見有之
由良信濃守伊勢^奥婦謁
二条在番婦
雨鞍覆五
御太刀銀馬代

御蓋様へ
銀五枚
女中へ有差
金森飛騨守
駿府被 仰付之
加番
板倉伊与守
杵野半右衛門
三浦越中守
仰出御礼として

一紀伊宰相殿御姫一条大納言殿へ縁辺被
紀伊重相より使者松下傳之丞差上られ
御目見被 仰
付即日御暇^ニ付奉書渡之且時服三被下之
御薰一器
薰衣香一箱
一条右大臣殿使者
保田主膳正
同御簾中使者
吉崎勘兵衛

右縁組之御礼
一東一卷
二東一卷
箱肴
御太刀
銀馬代箱
時服三十
御馬被下
同十
同五羽折
賜物なし

學頭之御礼
入院御礼
參府
三州學頭
馬寮等
久遠寺
古郡文右衛門
松平薩摩守
金森飛騨守
津輕越中守
土岐左京
松平謙岐守
保科市正
建部丹波守
内田出羽守

十六日
一牧野佐渡守義御役御免之旨 御直^ニ被 仰出之依之所
司代被 仰付候迄板倉内膳正可相勤旨被 仰出之
一松平丹後守掃国御礼以岡部七助羅紗甘間水砂糖^并二種
一荷進之
一太田原出雲福原淡路太田原半六福原内記芦野左近御暇
被下之
一中嶋五兵衛山梨十左衛門御暇^ニ付金二枚充被下之
一申下刻二九 渡御西下刻 還御

右数年御訴訟^ニ付御役御免 御直^ニ被 仰含
十六日也
牧野佐渡守
御先^江老中相越

辰下刻紅葉山 御社參 御長袴
御刀 松平内記
御香 内藤上野介
土井能登守
板倉筑後守
松平因幡守
御供

一紀伊宰相殿水戸宰相殿尾張中将殿豫參
一雅楽頭豊後守美濃守内膳正御先^江參上
一日門在山^ニ付 知楽院 御幣昏勤之
一還御後兩典殿參宮
一東叡山 御宮御堂 増上寺 御仏殿^江初揚梅被供之

一還御後兩典殿參宮
一東叡山 御宮御堂 増上寺 御仏殿^江初揚梅被供之

十八日
已下刻西丸 渡御御供
奥山里^三 武田越前守松平内記組乗馬 上覽
永井伊賀守
板倉筑後守
松平民部少

一石川美作守内室五月十八日夜死岩城伊豫守娘也
時服二充
右御暇^ニ付被下之
同御簾中使者
保田主膳正
吉崎勘兵衛

一紀水兩相公尾羽林陪拜
一雅楽頭豊後守美濃守大和守但馬守内膳正豫參
一知楽院御作法勤之
一御刀大久保出羽守御香松平紀伊守
一還御後兩典殿參拜

十九日
松平豊前守
岡部丹波守

右兩組中殿中^三 在番中善惡御改
一松平丹後守使者御暇時服三被下之
一春木大夫山本大夫梅原久吉御暇時服二充被下之

廿日
辰下刻紅葉山御佛殿 御長袴 御先^江老中罷越
永井伊賀守
土井能登守
板倉筑後守
松平因幡守
供奉

一今日三枝撰津守組坪内源太郎所へ鳥居三郎右衛門組水
野与惣左衛門罷越喧嘩仕与惣左衛門を討源太郎へ手負
立退
京極伊勢守

一今日三枝撰津守組坪内源太郎所へ鳥居三郎右衛門組水
野与惣左衛門罷越喧嘩仕与惣左衛門を討源太郎へ手負
立退
京極伊勢守

一今日三枝撰津守組坪内源太郎所へ鳥居三郎右衛門組水
野与惣左衛門罷越喧嘩仕与惣左衛門を討源太郎へ手負
立退
京極伊勢守

一今日三枝撰津守組坪内源太郎所へ鳥居三郎右衛門組水
野与惣左衛門罷越喧嘩仕与惣左衛門を討源太郎へ手負
立退
京極伊勢守

一今日三枝撰津守組坪内源太郎所へ鳥居三郎右衛門組水
野与惣左衛門罷越喧嘩仕与惣左衛門を討源太郎へ手負
立退
京極伊勢守

評定所式日寄合大和守内膳正出座
鳥居三郎右衛門組水野与三左衛門昨廿一日四時分御番罷

出候処坪内半三郎惣領三枝振津守組坪内源太郎宅^江立寄候是、依屋敷隣^ト火事ナトノ為手前勝手ニ罷成事言合之儀取次頼申入候処半三郎合点^ニ付礼に罷越候処源太郎一圓同心無之段其上難成申分故源太郎切付家来大勢出合与三左衛門^ヲ當座切殺申候源太郎は手負立退之^与由三左衛門家来四人之内若黨老人當座に果申候挾箱草履兩人共深手^ニ罷在義源太郎家来も死人有之

廿三日

御座之間^江被為 召於丹後田辺三萬五千石被下

但式千四百石御加増之由其上城地被 仰付之旨 御直被 仰付之

一松平新太郎松平相模守掃国御礼之使者御暇時服三充被下之

廿四日

辰下刻紅葉山 御仏殿^江御長袴 御先^江

老中不殘罷越

土井能登守

永井伊賀守

板倉筑後守

松平民部少

松平内記

御刀

御香

豫參

雅 栗頭

豊 後守

美 濃守

大 和守

内 膳正

廿五日

廿八日也 大坂 御目付掃 下曾根三十郎

桑山主水

閉門 御押目付 栗津八郎右衛門

御小十人押八人

右去^者八日角田川 御成之刻諏訪彦兵衛支配之者を打擲仕候付^面也 追放 彦兵衛支配之者老人

一甲府殿より果鑓三被献之

廿六日

當中無記事

廿七日

殿中別条なし

廿八日

巳下刻黒書院 出御如例御一門方 御對顔

大坂掃^下曾根三十郎 桑山主水 紀伊相公

右過^而白書院 出御如例月諸大名御礼 參勤之面々

銀馬代 大村因幡守

銀馬代 桑山修理亮

銀馬代 岡部備後守

銀馬代 前田宮内

銀馬代^ツ 榊原越中守

御暇之面々

時服二十 大久保加賀守

時服二十 遠藤備前守

時服六 金森左京

時服三 荒井岡所へ御暇

羽折 本多彦八郎

右如^{御小納戸}御免 御奉公可仕旨老中被仰渡之 御船千夜 坂井八郎兵衛

右屋敷破損為修復料金百兩被下之 破損奉行 原田半兵衛

病免 四谷 自證院

右^者日光御門跡御訴訟^付閉門御赦免

一尾黃門使者松平圖書を以二種一荷被献之是先日 上使

戸田相模守を以御懇之 御詫其上御樽有被造之御礼也

一松平加賀守使者津田玄蕃を以八講布百疋献上之是掃国

之御礼次^ニ自分之御礼銀馬代差上之

一茶屋宗古二番子文四郎御茶人之キレ十差上初^而之 御見申上之

一碁打算智算哲哲扇子一箱充を捧參府之御礼申上候

廿九日

一尾張中納言殿之使者松井圖書御暇^付時服四被下之

一松平加賀守掃国御礼之使者津田玄蕃御暇^付時服三被下之

一新番頭遠山半左衛門組中引渡有之

一尾黃門より果鷹六被献之

一紀伊宰相水戸相公尾張羽林陪拜
一還御後兩典殿參詣せらる
一例之通御連枝中^ノ御機嫌伺使者差上らる
一日門日光山より掃室^付為 上使以大澤兵部太輔揚梅一籠被遣之

一宮津より掃參天野弥五右衛門井上太左衛門
一山高孫兵衛石見国御預り所^ノ參府竹内三郎兵衛豊後国御預所より參府各條^ニ五筋充差上之
新御番頭 遠山十右衛門跡 遠山半左衛門

柳營日次記

寛文八年

六月

朔日

巳下刻黒書院 出御如例御一門方 御對顔過^面白書院
出御如例月諸大名 御目見
巳下刻西丸 渡御御供^二は

於山里御馬 上覽未^レ下刻 還御

參勤

（銀馬代 輻燭五百挺）
松平遠江守

（同二百挺）
大関信濃守

（同三百挺）
溝口土佐守

（同）
松平駿河守

（時服五）

一 細川若狭守湯元より帰參^二付御肴一箱差上之
一 若王子使僧勝仙院使僧各御祈禱之御礼卷薰衣香一箱充差上之

一 尾黄門国元より巢鷓被^レ之付^二彼鷹匠^二時服二被下之

一 八幡豊藏坊使僧御暇^レ車物一被下之

二日

一 織田主計頭母儀於江州知行所病惱危急之趣達 上聞主計頭御暇被^レ遣之

三日

一 御座間へ大目付^并御目付之面々召之御用之儀被^レ仰含之

四日

一式日之寄合大和守但馬守出座

一 巳下刻西丸へ 渡御申刻 還御

一 巢鷓二充被^レ遣之

上使本多土佐守

左馬頭殿

右馬頭殿

右御礼明日可有御登 城旨也

奥 石川美作守青山丹後守組之御番衆山里^二乘馬 上覽

五日

一 左馬頭殿右馬頭殿紀伊宰相殿水戸宰相殿登 城昨日巢鷹遣され候御礼也

六日

巳刻黒書院 出御大坂在番御暇

銀十枚
時服二ツツ
銀十枚ツツ

大御眷^{九郎右衛門子}
源右衛門子
初段

源右衛門子
与兵衛子

忠兵衛子
山田市十郎

推左衛門子
中嶋甚五郎

同人次男
同 傳五郎

清右衛門子
川勝権九郎

勘右衛門子
後藤清十郎

源六郎子
原田源三郎

二郎右衛門子
松波三五郎

半左衛門子
三田八十郎

十八人
米倉傳十郎

惣八郎子
金田惣左衛門

儀左衛門子
佐橋二郎左衛門

半左衛門養子
相馬小平太

与兵衛子
山木主税助

彦左衛門子
三輪六之丞

勘兵衛子
川勝一郎左衛門

右鳥目百匹ツツ前置一同 御目見十八人

參勤御礼

御太刀馬代
金忠杖
銀馬代
時服四

松平下野守

織田内記

時服三十
御暇

同十羽折 本多内記

同五同 岡部内膳正

同十 秋田安房守

同断 水谷左京亮

同五羽折 諏訪因幡守

同四羽折 松平将監

同三羽折 酒井備中守

右之通いづれも御馬被下之 桑山三之助

初見

（銀馬代 因幡守三男）
時服二 青山左衛門

銀馬代 帶刀養子 松平主税助

大坂御番御暇 戸田備後守

金五枚時服五羽折^{ツツ} 本多伯耆守

一 戸田備後守組間宮次左衛門儀小十人組より入番付 百俵十人ふち取来候処都合二百俵^二被成下

（巢鷓一 上使大久保山城守）
尾張中將殿

（巢鷓二 尾張中將殿）
尾張中納言殿

但右黄門殿在国^二付中將殿より可被相届旨也 水戸少将殿

（巢鷓一 上使青山丹後守）
右御礼として即刻登 城

一 紀亞相へ巢鷓二被遣之安藤帶刀殿中へ召之右之趣老中傳之

一 保科肥後守へ巢鷓二被下之 上使内藤式部少輔

一 尾張中將水戸少将へ巢鷓一ツツ被遣之尾黄門へ^二鶴二ツツ中將^レ被届候様被遣之 槽屋八十郎

七日

一 酒井河内守内室昨六日女子平産

一 内藤飛驒守息女去二日死是皆沼越中守内義也

一日光御門跡へ以由良信濃守白銀百枚被遣之是五月御祈禱料也

一於 御前雅樂頭豊後守巢鶴^二充^一 内藤^一 充拝領之
一伊達遠江守在所到着付^三差越候使者御暇^二付時服^一被^二下^一之

八日

御膳奉行
病免
御右筆
松平八郎左衛門
建部傳左衛門

一小普請奉行原田平兵衛願之通病免

九日

無記事

十日

御座之間

右御勘定頭被 仰付之

秋浦市右衛門
改内藏允

一東叡山 御宮御堂 増上寺御仏殿へ初焼米被供之

十一日

千葉兵左衛門
水野与左衛門

一森内記帰国^二付^三御礼以使者巻物^一并^二荷差上之^一

十二日

於評定所式日寄合稲葉美濃守土屋但馬守出座

十三日

酒井修理大夫

右被 召之内々願之通傳後守惣領勝之助被 召出修理
大夫領地之内老万石分被 仰付旨老中傳之

一渡辺丹後守病惱之趣及 上開子越中守御暇被下大坂へ
造さる

一森内記帰国御礼之使者御暇^二付時服^一被下之

十四日

已下刻黒書院 出御參勤御礼

(御太刀金馬代
縮二百把
同
蠟燭三百挺
銀馬代
縮百把
銀馬代
蠟燭三百挺 充

銀馬代
紫皮二十枚
是^ハ水口御番相代婦參^二付^一也

(銀馬代
切口三口
同
草紙二箱
御暇之面々

(時服二十
御馬
同断

時服二十
(時服六
羽折

同
(時服五
羽折

同
(同六
羽折

(同三
羽折
初^三御目見

銀馬代
(時服五
金三枚
時服五

但隼人^ハ被 召出勝之助^ハ被 召出分知被 仰付候御礼也
一高林又兵衛大坂役所へ御暇^二付金^一二枚時服^二羽折被下之^一
一馬場十郎左衛門岩佐善兵衛右兩人 御目見是^ハ摂州多
田院御造當奉行相勤婦參也

御臺様へ献物
銀十枚 女中有差
銀五枚 同断
同断 同断

十五日
如例年今日諸大名出仕無之

一 今日山王祭礼^二付^三已后刻三丸 渡御御祭礼 御上覽午
后刻 還御
奥^二兩典より瓜一籠^一ヲ献上之
一松平丹後守病^二付^三嶋村一庵被遣之

十六日

御嘉例之次第已后刻大廣間^江出御中段^二御着座^一

御刀 大久保出羽守

松平越前守
松平下野守
松平薩摩守
細川越中守
松平伊与守
松平伯耆守
丹羽左京大夫
織田山城守
松平出羽守
松平修理大夫

右老入^{ツツ}御目見御向御縁通順々着座也則御菓子
御前着座之衆^江御次之間前置御菓子被下之給仕進物
番 御前^二被 召上之時各頂戴過^三着座膳^一を持^テ退去
也此外出座之面々

酒井雅楽頭
大澤兵部太輔
吉良上野介
松平刑部太輔
中川式部太輔
阿部豊後守
稲葉美濃守
牧野佐渡守
上杉伊勢守
由良信濃守
松平彈正少
佐竹右京大夫
森 美作守

本多下野守
酒井勝之介
内藤豊前守
本多下野守
酒井勝之介
内藤豊前守

松平土佐守

松平中務太輔

立花左近將監

松平信濃守

小笠原遠江守

内藤帯刀

酒井修理大夫

久世大和守

土屋但馬守

板倉内膳正

酒井河内守

松平美作守

松平和泉守

松平遠江守

無官高家

御詰衆

同惣領

御留守居

大目付

町奉行

禁中方町奉行

雨宮對馬守

奈良奉行

長崎奉行

大坂駿府町奉行

大御番頭

御書院番頭

御小姓組番頭

御旗奉行

御留守居番

百人組之頭

御鍵奉行

御持弓御持筒頭

三千石以上布衣

新御番頭

大御番頭惣領

御近習衆

柳生飛騨守

御小姓

御小納戸

中興衆

法印法眼

御目付

御使番

御作事奉行

御普請奉行

黒田豊前守

妻木彦右衛門

松浦猪右衛門

杵浦内藏允

伊奈半十郎

御書院組頭

御小姓組与頭

惣御弓御鉄炮頭

田中四郎兵衛

井上左大夫

西丸御留守居

御歩行頭

小十人頭

二丸御留守居

御腰物奉行

御松手頭

上水奉行

諸奉行諸役人

諸番衆

醫師

御同朋

十七日

紅葉山御宮為 御名代土屋但馬守參拜

十八日

申下刻二丸 渡御御馬 上覽戌后刻 還御

一端午之御内書如例年被相渡之

一有馬玄蕃頭病氣^三付^四 上使渡辺筑後守被遣之

十九日

為御慰之御能被 仰付之依之

左馬頭殿 右馬頭殿

登 城辰下刻黒書院 出御

根矢百筋^{上使} 肥前嶋原掃 松平備前守 森川小左衛門

同所へ御目付掃 右御勝手方 御目見畢 大廣間 出御御両人方 御對顔

次に同じ御襖障子明之御次之間伺公之面々 御目見過

下段御敷居際 御着座御能初

御能組

氷室 金剛 太郎左衛門 源六 又右衛門 清五郎 八郎右衛門

八嶋 同人 六右衛門 三右衛門 兵三郎 吉右衛門

湯谷 宝生 彦太郎 九郎大夫 清次郎 忠次郎

羅生門 金剛 六右衛門 三右衛門 十兵衛 惣右衛門

歌占 宝生 源六 八郎右衛門

檀風 八左衛門 六右衛門 介九郎 又三郎 兵三郎 助右衛門

現在嶋 八左衛門 二郎左衛門 源助 庄二郎

船渡聲 弥右衛門 ふアク 長大夫

米市 弥右衛門 勢いらい 長大夫

祇山伏^{ねぎ} 弥二兵衛 禁野 弥右衛門

丹州田辺^江 松平与次右衛門

但馬豊岡^立 石谷七之助

右両人為引渡近日可被遣之旨可致用意之旨被 仰渡之

廿日

一東叡山 御堂 御名代大和守

右御菓子頂戴畢^而午后刻 入御
膳高千八百十三膳内頂戴六百九十五膳

廿一日

巳下刻黒書院 出御諸大名参勤御礼

丹後田辺
押領御礼

牧野佐渡守

丹後国田辺替其上城地被 仰付二千四百石御加増之御礼也

参勤

(金馬代
蠟燭五百挺

保科筑前守

(同
綿百把

松平日向守

(同
塩硝十箱

相馬長門守

(同
綿百把

戸澤能登守

(銀馬代
時服五

松平佐渡守

(同
蠟燭三百丁 充

土方河内守

(同
苜蓿皮廿枚

一柳山城守

銀馬代

松平鞆負

一土屋相模守御肴一箱差上之湯元より帰参_二付_三也

御暇之面々

(時服二十
御馬

酒井修理大夫

(時服十羽折
御馬

牧野飛騨守

時服十

松平主殿頭

(銀五十枚
時服五

本多飛騨守

(時服五
羽折

小出信濃守

(時服四
羽折

小笠原土佐守

(時服四
羽折

新庄隠岐守

同

細川豊前守

同

本多山城守

同

前田右近大夫

一大岡弥右衛門宇治より帰参 御目見原田利齋川嶋宗貞

も同断

一大坂御蔵柴酒井七郎左衛門 御目見是為御勘定罷下_二

付_三也

牧野佐渡守

一御臺様へ

保科筑前守

銀十枚

保科筑前守

廿二日

評定所式日寄合大和守内膳正出座也

廿三日

無異事

廿四日

増上寺御仏殿為 御名代美濃守参拜

有馬玄蕃頭

渡辺筑後守

一銀座年寄流屋太左衛門御暇_二付暑衣_二被下之

一最上刑部在所へ御暇被下之旨美濃守傳之

一大坂より繼飛脚到來渡辺丹後守儀所勞養生不叶去十

九日病死之旨注進之

廿五日

廿六日

向後所々辻番_二居候者年六十以上廿以下_二并_三片輪成者差置

間敷旨

右之段永井伊賀守 殿中伺公之面々_二被_三 仰渡之

町奉行御勘定奉行御座之間被為 召支配方仕置等之儀

御直_二御尋也

一玉舟 天室 仙溪 傳外 乾奠 見岩 春沢事只今迄

東海寺雖為輪番自今以後_二此分追加

実堂 鉄舟 愚溪 無隠 一溪 洋山

廿七日

御役替被 仰付候面々

御旗奉行 大久保出羽守組

松平八郎左衛門跡 坪内左之助

鉄炮玉粟奉行 水野周防守組 勝部五兵衛

小侯吉左衛門跡 御具足奉行 長谷川九兵衛

曲酒清藏跡

右之通被 仰付旨老中被申渡之

一松平大膳大夫帰国御礼之使者を以羅紗甘間御樽一荷御

看二種献上之

廿八日

辰下刻黒書院 出御如例御一門方 御對顔白書院

出御

(時服六
羽折

大坂加番
御暇

(時服四
羽折

松平遠江守

(時服三
羽折

溝口土佐守

未上刻二丸 渡御御膳被 召上御馬 上覽未下刻 還御

一本多彈正少弼在所へ御暇時服四羽折被下之

一祝言相濟候御礼 時服四_二内藤帶刀 岡部備後守

一梶井門跡使僧南之坊を以薰衣香一箱差上は大原御寺内

修復料被遣之御礼也且又即日御暇_二付時ふく_二被下之

一尾張黄門使者浅岡弥右衛門を以近頃甚暑_二付_三御機嫌

被 相同度之旨也將又黄門_二中将殿へ果鶴被遣之御礼

被相謝之弥右衛門即日御暇時服三被下之

時服三羽折 秋田九郎兵衛

御代官所へ御暇 同 二羽折 松波五郎右衛門

奥院_二墨行成紙被遣披露

御勝手_二

銀馬代 参上 築田隠岐守

染草五枚 小堀源兵衛

青銅一メ文 初_二 上方御代百懸右衛門_二兼_三 木村源之助

廿九日

一撰州多田院御造畢付_二而彼奉行若佐善兵衛馬場十郎右衛

門へ金三枚時服二充被下之

一松平大膳大夫使者御暇_二付時服三被下之

晦日

速々願之通 下田歌手役 石野八兵衛

御役御免

去_二十一日亥刻より十二日辰刻迄加賀金澤領之内洪水

仕土水在郷家数式百廿三軒流男女七十人余相果申候也

一京都_二以次飛脚 女院御所へ御自筆之御書差遣之

一女院様御賄頭三宅左近跡役御賄方遠山次左衛門被附之

但只今迄七十俵五人扶持取来候処向後四十石_二被増下

御ふち方^ハ如元被下之

一同御侍久保田佐次右衛門跡役火之番小林与左衛門被附
之御切米七十俵五人^ハち取来候処三十俵御増加都合百
俵被成下扶持方^ハ如元被下之

一名越之御被具土御門福壽丸如例年調進之